

土岐川グリーンベルト通信 第123号

令和6年度「笠原の森」笠原中学校による活動報告

土岐川流域グリーンベルト活動とは

多治見市・土岐市の「市街地に隣接する樹林地」を「土砂災害に強く、自然環境や景観が豊かな樹林地（グリーンベルト）として保全・創出すること」を目的とし、学校やボランティア団体等地域と連携して活動しています。

笠原中学校での取り組み

笠原中学校の1年生53名が、ふるさとの森「笠原の森」を舞台に、土砂災害や樹木の働きなどについて学んだり、森の土や木を観察したりしました。

この活動は、多治見砂防国道事務所、多治見市、多治見さぼう・みちボランティアクラブの支援のもと実施しました。



○学習会 10月21日

屋内学習「砂防・森のはなし」「ハザードマップの確認」
「森の移り変わりについて」

屋外学習「土石流模型実験」

○観察会（野外学習） 10月24日

野外学習「砂防堰堤の見学」「森の土の観察」「森の木の観察」

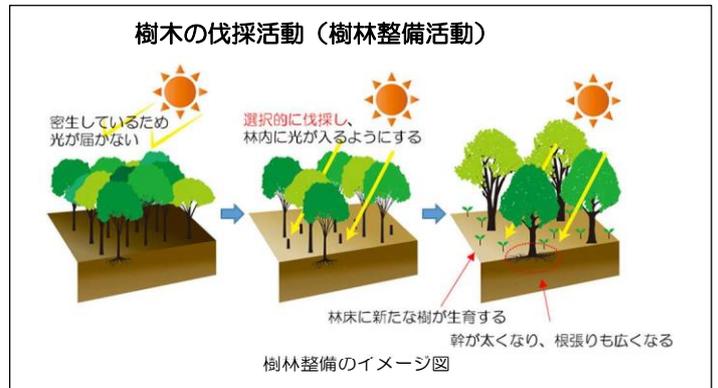
10/21 学習会（森に入る前の事前学習）

強く豊かな樹林にするために

多治見市では、かつて陶土の採掘等によって「はげ山」が広がっていました。「はげ山」では、少しの雨で大量の「土砂」が流出し、下流域では土砂災害が頻発していました。はげ山からの土砂の流出を軽減するため砂防事業等による緑化対策に取り組んだ結果、緑が回復しました。

しかし、現状の「笠原の森」では林床が暗く新たな植物が芽生えにくい環境であるため、斜面崩壊防止機能をはじめとした樹林が備えるさまざまな効果が期待しにくい状況となっています。

そのため、土砂災害に強い「明るい樹林づくり」に取り組んでいます。



砂防・森のはなし



「砂防・森のはなし」では、樹林地が荒廃していた歴史や樹林整備の必要性を学びました。

ハザードマップの確認



多治見市の職員の方から、ハザードマップの説明をしていただき、危険箇所を確認しました。

森の移り変わりについて



はげ山から森林への移り変わりの過程について、勉強しました。

土石流模型実験



砂防堰堤によって、土砂災害の被害が軽減されるようすを模型実験で学びました。



10/24 観察会

砂防堰堤の見学や土や木の観察を通じて、「笠原の森」に触れ合うとともに、土壌や樹種の特徴から「笠原の森」における樹林整備の必要性を学びました。ほとんどの生徒は、「笠原の森」に初めて入りましたが、多治見市、多治見砂防国道事務所の職員と多治見さぼう・みちボランティアクラブの指導のもと、ケガなく活動を終えることができました。

危険予知活動



林内を散策



砂防堰堤の見学



森の土の観察



森の木の観察



活動後のふりかえり



〇生徒のコメント（一部抜粋）

- ・森にはたくさんの役割があり、豊かな緑があるのはグリーンベルト活動などを行っているからだ実感した。
- ・昔の「はげ山」からこれだけ緑に染まったことに驚き、すごい変化の大きい森だなと思いました。
- ・最初は、木がないとどのようなことが起きやすいかなども全然分からなかったけど、学習会や観察会を通して、木の大切さや土砂災害のことなどが分かった。
- ・今までもこれからも、昔のようなことにならないように、笠原のみんなで森を守って、豊かな森にしていきたいです。
- ・砂防堰堤の役割や森の役割を改めて知ることができたから、もしも自然災害などが起きたときに、自分が安全に避難するためのルートなどを調べておこうなどと改めて思った。
- ・森が町を守ってくれていることを初めて知ったし、守っていかなければならないな、と思いました。
- ・笠原の森は土砂災害から守ってくれる大事な存在。ハゲ山からでも管理をしっかりすれば良い山や森になる。

〇笠原の森グリーンベルト活動の経緯

平成12年：活動開始（講義、歩道計画、歩道整備等）
 平成14年：樹林整備開始
 …活動開始から今年で25年目になります。

〇過去の主な支援者

多治見市、岐阜大学、NPO 法人鎮守の森、
 市之倉森づくり合同部会、
 多治見さぼう・みちボランティアクラブなど

作成者・お問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局
 多治見砂防国道事務所
 砂防調査課

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6
 TEL：(0572)25-8024

【事務所HP】【砂防X(旧Twitter)】

